

授業科目名	アートマネジメント概論	担当教員	古賀 弥生 井原 麗奈
必修の区分	必修		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年第1クォーター		
講義内容	アートマネジメントは、狭義では文化施設、文化団体、文化イベントの運営のあり方、広義では芸術・文化を活用した地域活性化や地域共生社会の構築など芸術・文化と社会をつなぐ領域全般を指す。この授業では、文化施設や文化イベント運営の実務につながる基本的な知識の習得とともに、現代社会のさまざまな分野と芸術・文化とのつながりについて理解することを目指す。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの狭義・広義の定義について説明できる。 ・アートマネージャーの仕事について、文化施設運営や文化団体の具体的な活動事例をもとに説明することができる。 ・芸術・文化を活用した地域活性化や地域共生社会の構築について、事例を挙げてその概念を説明することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション/アートマネジメントとは何か (古賀) 狭義と広義のアートマネジメントの概念を整理する 2. アートプロジェクトの運営 (井原) 全国で展開されているアートプロジェクトについて、その成果や課題を考える 3. 公立文化施設の運営①国内事例から (井原) 公設の文化施設運営について国内事例をもとに概観する 4. 公立文化施設の運営②海外事例との対比 (井原) 国内外の事例の対比により、日本の公立文化施設運営の課題を抽出する 5. 芸術文化の法 (井原) 芸術文化に関わる法律制定の背景、著作権について学ぶ 6. アートマーケティング (井原) 文化事業や文化施設運営に必要なマーケティングの基礎知識を、一般的なビジネスにおけるマーケティングとの違いに即して学ぶ 7. アートマネージャーの活動 (井原) 前半のまとめとして、文化施設や文化イベントの運営に関わるアートマネージャーの仕事について整理する。 8. 芸術・文化による地域課題へのアプローチ (古賀) 地域課題へのアプローチに関わる領域について、広義のアートマネジメントの機能を考える 9. 障害と芸術・文化 (古賀) 社会包摂、地域共生社会の概念について、障害のある人々と芸術・文化の関わりを通して考える 10. 高齢化・貧困問題と芸術・文化 (古賀) 社会包摂・地域共生社会の概念について、高齢者、ホームレスなどの芸術・文化活動を通して考える 11. 災害と芸術・文化 (古賀) 災害時、復興期において芸術・文化が果たすことのできる役割を考える 		

	12. 総括/芸術・文化と社会をつなぐアートマネジメントの意義（古賀） 狭義・広義のアートマネジメントの概念を再整理し、社会におけるアートマネジメントの意義を確認する。
事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業テーマに関連したキーワードについて事前に文献等で学習すること。 ・次の講義の前に、配布したプリントや参考資料を用いて前回の授業内容を復習のこと。 ・事前学習には『基礎自治体の文化政策 まちにアートが必要なわけ』（藤野一夫編著、水曜社）を参考のこと。
テキスト	
参考文献	授業内で適宜紹介する
成績評価 の基準	授業内で実施する小レポート（40%）、課題レポート（60%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	古賀（yayoikoga*stdat.at-hyogo.ac.jp） 井原（i.rena*stdat.at-hyogo.ac.jp）[*を@に変更]